

【評価実施概要】

事業所番号	170503189		
法人名	社会福祉法人愛全会		
事業所名	アビターレグループホーム		
所在地	札幌市豊平区平岸2条2丁目1-1 (電話) 011-821-7000		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉サービス評価機構Kネット		
	札幌市中央区南1条西5丁目7 愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成20年12月16日	評価確定日	平成21年2月4日

【情報提供票より】(20年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27人
職員数	24 人	常勤	21人, 非常勤3人, 常勤換算2.2人

(2) 建物概要

	鉄筋コンクリート 造り		
	5 階建ての	5 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	約78,000 円	その他の経費(月額)	日額 光熱753円 暖房303円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要(11月30日現在)

利用者人数	27 名	男性	1 名	女性	26 名
要介護 1	2名	要介護 2	10名		
要介護 3	11名	要介護 4	4名		
要介護 5	0名	要支援 2	0名		
年齢	平均 84.3 歳	最低	68 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	K K R 札幌医療センター 社会保険病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは平成17年に開設され、1・2階がデイサービス、3・4階がナーシングホーム、5階がグループホームの高齢者総合福祉施設である。グループホーム内部は広く明るく開放的で、絵画や造花が飾られ優雅な雰囲気があり、利用者がゆったりとくつろげる空間づくりに配慮していることが窺える。運営法人は人材育成を重視しており、職員の内外の研修受講にも積極的に取り組み、法人内の職員研修体制も充実している。管理者はチームケアを大事にしながら職員一人ひとりの個性をも大切にしている。職員は笑顔・思いやり、優しさをもって利用者本位のケアに取り組んで活気のある姿勢が見られる。利用者も職員も落ち着いて馴染みの関係が保たれており利用者はゆったりと自分のペースで毎日の暮らしを楽しんでいる。運営推進会議を定期的に開催し、地域との協力体制づくりに積極的に努めている。今後も地域の中で安心して暮らせる質の高いホームとして期待できる。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題であった地域密着型サービスの理念について職員全体で話し合い、新たな理念のもとで取組んでいる。また地域との防災体制については町内会と積極的に話し合いをされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、意義、目的等共通認識のもとに、管理者・職員が参加して行われ、理念の実践や日々の介護の気づきなど様々な角度からの評価が行われている。またこの評価は日々の暮らしを振り返る機会としており、このことがサービスの質の向上に繋がるよう取組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期的な運営推進会議が開催され、有効に機能している。町内会長・民生委員・地域包括支援センター職員・家族などが参加している。ホームから積極的に運営状況や活動内容など特に地域参加について話すなど、メンバーから出された質問や意見、要望などは、定例会で職員に報告し、全職員で話し合い、日々のサービスの質の向上に活かしている。会議議事録から熱心な話し合いがされていることが窺える。また運営推進会議を地域との連携強化の場として重要視している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	全ユニット家族交流会や日頃から家族との交流を図り、気軽に意見・要望を話せるような雰囲気作りに努めている。家族へのアンケートの実施や意見箱から出された意見・要望など、迅速に話し合いが持たれケアに反映している。また利用者の暮らしを家族の訪問時や体調変化時は随時電話連絡している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域のイベントや行事などに職員や利用者とともに積極的に参加し地元町内会に利用者共々とき込んでいます。買い物や散歩などで地域の人も顔馴染みになり交流を深めている。また中学生の総合学習の受け入れなどの地域の子どもたちとの交流や複合施設のイベントを通して地域住民との交流など積極的に行われている。運営推進会議を通じて、地域への理解や協力を働きかけるなど、利用者の地域生活を支えるために取組んでいる。

評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域との交流を持ちながら暮らし続けるため、その地域との連携を盛り込んだ独自の理念をつくりあげ、職員間で共有している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念と各ユニット理念は、目に付きやすいユニットの入り口に掲示している。職員の採用時に理念を伝え、申し送り、カンファレンス、ケアプランの見直し時等には理念に触れるなどし、職員間で理解・共有を図り、日々のケアの中で理念の実践に向けて取組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会や商店街の行事やお祭りに参加したり、ホームの行事やイベント等に地域の方に来ていただく、また地域の方から花や作物をいただくなど交流を図っている。複合施設のイベントを通し、地域住民から利用者への声かけや顔なじみになっている。更に「ふれあいサロン」との交流や中学生の総合学習の受け入れなど、地域との密なる交流に積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価や外部評価の意義や目的を理解し、その評価によって明らかになった課題について改善計画をたて、その日々のケアサービスを振り返る機会としても捉えており、全職員で話し合い取組んでいる。なお、評価結果での課題について、グループホーム事業室を通して改善し、更なるサービスの質の向上に積極的に取組み実践につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的に運営推進会議を開催し、利用者、家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員等が参加している。会議では自己評価と外部評価の結果の公表やホームの運営状況等報告し、話し合いながら率直な意見や要望、助言などをいただき、全職員で話し合い日々のサービスの向上や更なる理解を得られるよう努めている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>実践者研修、リーダー研修、管理者研修、地区管理者連絡会議、市グループホーム連絡会議等研修に参加し情報交換等を行い、結果を職員ミーティング等を活用し協議報告するなどサービスの質の向上に活かしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の予定表、お便りや利用者家族が来訪時に職員は声をかけ、積極的に利用者の暮らしぶりや健康状態等について家族に伝えている。利用者の健康状態等に变化があった場合はその都度連絡している。その際、症状に応じて担当医から説明している。また、金銭管理については、小遣い預かり依頼書に同意し、毎月領収書・出納表を送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>全ユニット家族交流会（年2回）の開催、家族へのアンケートの実施など、率直な意見の把握ができる仕組みとなっている。その意見、要望を受け、反省会、話し合い等を行っている。また運営推進会議への家族の参加を呼びかけたり、意見箱を設置するなど、家族の意見等をより多く取り入れられるよう工夫している。なお家族からの意見等を受けた場合は迅速に対応し、ホームの運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動・離職等は、必要最小限に努め利用者・家族への信頼が途切れないように努めている。代わる場合は、便りや来訪時に家族への挨拶やスタッフの紹介などに努め、利用者との馴染みの関係を大切にされた支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の質の確保と向上のため、全職員が研修を受講できるように配慮している。外部研修や講習会に参加し、カンファレンス等に研修内容を報告し、情報を共有している。教育委員会、感染委員会、業務効率化委員会など法人内研修体制にも力を入れ、接遇、感染研修等を実施し、利用者への上質なサービスの質の向上に努めている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区連絡会議等に参加している法人内のグループホーム(16ユニット)のネットワークでの勉強会で情報交換や悩みなどを話し合っている。また白石地区との合同研修会に参加し、同業者との交流や情報交換などを通してサービスの質の向上に努めている。</p>		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居を希望される場合は、事前に利用者本人・家族に見学に来てもらい、職員や利用者、ホームでの雰囲気慣れてもらうなど、馴染みの関係を築き利用者が安心して入居できるよう配慮している。また職員が入院先の病院等へ面会に行くこともある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、生活史の中から本人を理解し、共感しながら共に過ごしている。特に掃除・買い物など、利用者の得意なことを見極め、生活の中での役割にの場面づくりに配慮している。なお、人生の先輩として調理や手芸など生活の知恵など教えてもらう場面も多く、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式の生活シートやフェイスシートなどにより利用者のこれまでの生活歴やその日々の関わりの中から、思い、言動、行動、表情、興味などの情報を収集し、希望や意向の把握に努めている。また職員は利用者との日々の会話からも思いや暮らし方の希望の把握に努め、介護計画書に組み入れ、利用者の暮らしの継続を支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者本人・家族の希望や職員の気付きや状態の変化等に関して、カンファレンスなどで話し合っけて検討し、本人・家族の意見や要望をも反映させた利用者本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは、カンファレンスを通して行っており、利用者の状態の変化時には、家族や担当医、看護師等とその都度話し合い随時適切な検討と見直しが行われている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族のその時々々の要望に応じて、病院受診・散歩・買い物・遠出の際の車両での付き添いなど、柔軟なサービスの支援を行っている。またディサービスやナーシングホームとの複合施設のため、設備機能を活用しその利用者の方とのマージャンや喫茶店の利用など支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	週1回の訪問看護や2週間に1回の訪問診療の健康管理の受診体制支援を行っている。また医療機関と連携を取り、利用者の健康状態等について医師、看護師に相談できる体制を整えている。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	現在該当者がいないが医療機関と連携し、家族の意向をもとに重度化した場合や終末期のあり方について、ホームとしての支援や家族の協力支援等話し合い方針を共有している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員は利用者の誇りや羞恥心に配慮し、場所、声のトーン、実名などの声かけや対応を心がけ、日々のケアサービスを実践している。また個人情報等は保管場所が決められており、プライバシーの保護に努めている。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	自宅と同じようにホームでの生活も時間による制約がないように、自室やリビングソファでの休憩など利用者の希望や思いに沿って配慮している。食事も急がせることなく利用者のペースを大切にしている。また複合施設内の喫茶店にも本人の意思により自由に利用している。一人ひとりの暮らし方の希望に沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の得意な材料刻み、味付け、盛り付けや下膳、食器洗い、テーブル拭きなど力を発揮できる場を設けるなど職員と利用者が一緒に準備や後片付けをしている。また今回の訪問時、職員は共にテーブルを囲み、利用者が食事を摂っている傍らで見守り、また会話を楽しみながら支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後からの入浴や希望により夕食後の入浴などゆっくりと入浴できる体制をとっている。事前に声かけや意思確認をし、入浴を楽しめるよう見守りや介助をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の生活歴や希望を把握して、手芸、書道、音楽、オセロなど利用者の得意なこと、食事の盛り付け、片付け、食器洗いの家事手伝いなど役割を発揮してもらえるよう機会を設け、楽しんだり気晴らしできるような支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の暮らしが単調なものにならないように、体調や気候に合わせて施設周りや公園、町内の散歩、毎日のゴミ捨てへの同行、デパートでの買い物、外食、喫茶店など、利用者の希望に応じた戸外の機会を積極的に支援している。また家族と共に紅葉狩り、コンサート、お寺参り等個別にも対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーター入り口は暗証番号になっている。 ・2階への往来、外出、散歩等利用者が外出しそうなときは、一緒に職員が付き添い、安全面に配慮しながら自由な生活が出来るように支援している。なおユニット間の行き来は自由になっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署による避難訓練を実施するとともに、3ユニットで対応できる緊急連絡網を作成し、速やかに対応できるよう備えている。また複合施設全体にて応急手当など救急対応の研修会を定期的に行っている。緊急時に地域から協力が得られるよう町内会への協力を依頼している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の日々の健康状態に応じて食事や塩分の量を調整し、状態に合わせて栄養バランスを確保できるよう支援している。食事量や水分を確認し、摂取量少ない場合はおやつや繊維質、乳酸菌の含まれている補助食品の摂取などで工夫している。体操など体を動かす機会をも作っている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、明るく開放的な共用空間となっており、広々としており、絵画や造花が飾られ優雅な雰囲気を醸し出し利用者が居心地良く過ごせる空間となっている。廊下には椅子があり、外の景色を見ながら利用者同士の交流の場にもなっている。トイレも3箇所あり、車椅子でもゆとりある広さである。台所は利用者が自然に職員とともに調理できるようにアイランドキッチンになっている。食事中は軽音楽を流している。テーブルには季節の花などで飾りつけるなど居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた馴染みの家具、仏壇、寝具等日用品が持ち込まれており、自分らしく自由で安心して過ごせる居室となっている。温度、湿度計の設置や夜間は濡れタオルの利用、空気の入替えなど常に快適に暮らせるよう配慮している。		

 は、重点項目。